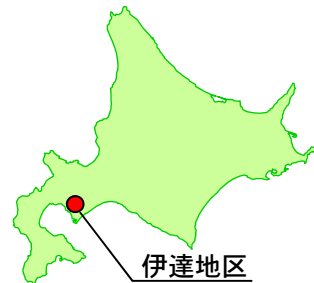


# 伊達地区



伊達地区

## 地区概要

関係市 : 伊達市  
 受益面積 : 1,281ha (田: 225ha、畑: 1,056ha)  
 主要作物 : 水稲、豆類、ばれいしょ、小麦、てんさい、  
 野菜類(スイートコーン、キャベツ、ブロッコリーなど)  
 主要工事 : 区画整理1,281ha



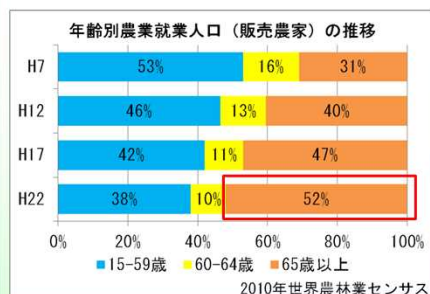
## 地域の現状と課題

本地区は、北海道伊達市に位置し、噴火湾に面した農業地帯であり、温暖な気候のもと野菜類の栽培を中心に畑作物及び水稲を合わせた農業経営を展開している。

特に、野菜類に関しては、「伊達野菜」としてブランドを確立しており、豊富な生産量を誇るほか、長期栽培が可能である地域特性を活かして長期安定出荷を行うなど、主として道内都市圏への野菜供給基地として重要な役割を果たしている。また、今後は、首都圏への出荷拡大を図るなどさらなる発展を目指している。

しかし、地区内の農地は、小区画、不整形であり、一部ほ場では石礫の出現や起伏の著しい状況に加え、離農跡地の継承による農地の分散化も進んでおり、非効率的な農作業の現状から農業経営が不安定となっている。

「伊達野菜」の全道作付順位



◇農家年齢は65歳以上が過半数を占める  
 ◇北海道の平均は、H22年度で33%  
 ◇本地区の高齢化は、北海道平均より約15年早く進行している。

### 現状

| ほ場条件                            | 農業構造                       | 地域社会                       |
|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| ◇区画が小区画、分散錯綜等により、生産性が悪く耕作放棄地が発生 | ◇高齢化、担い手不足等により、主要野菜の作付けが減少 | ◇移住者が増加する一方、若年層の都市部への流出が増加 |

### 将来予測

|              |                  |               |
|--------------|------------------|---------------|
| ◇耕作放棄地の更なる増加 | ◇優良農地や農業生産の維持が困難 | ◇農業を含む地域産業の疲弊 |
|--------------|------------------|---------------|



耕作放棄地

### 生産基盤の現状



地域内の不整形なほ場



起伏(うねり)のあるほ場



営農に支障を来す石礫

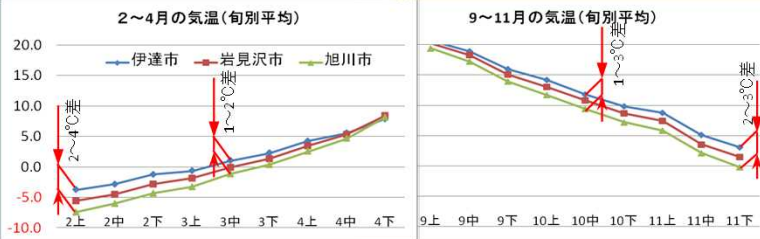


# 次世代が受け継げる伊達農業をめざして

～気候特性を活かした農業所得の増大と野菜の機械化導入による農作業の効率化～

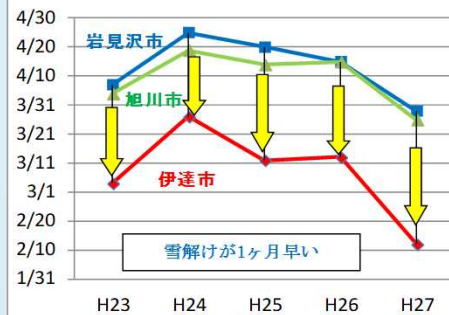
## 地域農業の特色

### 北海道の中でも恵まれた気象条件



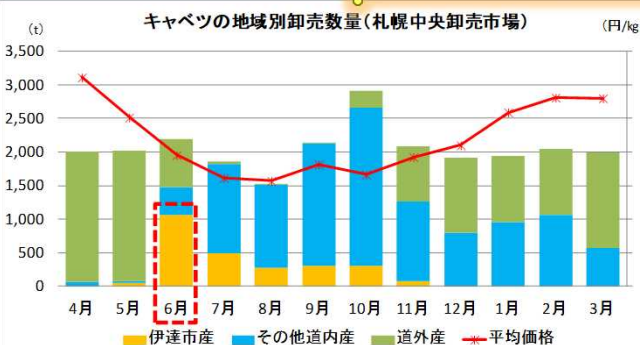
春先、秋口の平均気温が道内他地域より高く、長期間の作付けが可能

### 根雪終了日の比較



伊達市の雪解けは道内他地域より1ヶ月程度早く、農業開始が可能な

### 伊達市産野菜 出荷時期の特色



春先の温暖な気候特性を活かし、道外産から道内産に切り替わる早期出荷分(6月)を伊達産が担っている。道内1位の作付面積を誇る伊達産キャベツは、札幌市場における6月の卸売数量の約半分を占め、供給産地として重要な役割を果たしている。



## 魅力ある農業の実現に向けた展開

### 国営緊急農地再編整備事業による生産基盤の整備



手作業による収穫状況  
(多大な労力時間を要し非効率)

作業効率の向上に向けたほ場整備

- ◇大区画化、整形
- ◇石礫除去
- ◇起伏修正
- ◇排水改良

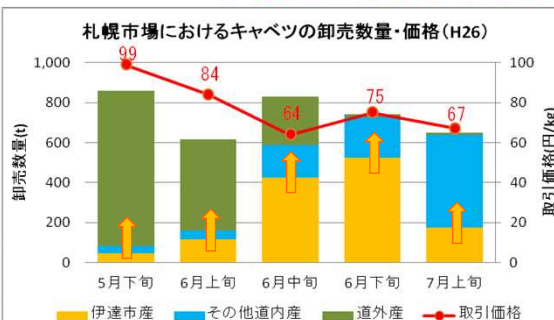


機械による収穫  
(労力の低減、作業時間の短縮)

- ◇小区画・不整形なほ場条件が解消され機械化の導入が可能となり、農作業の効率化が図られる。
- ◇機械化の導入にあたり、共同利用体制を構築し、営農経費の節減を目指す。
- ◇担い手農家は、機械化の推進により限られた労働力を有効に活用することが可能となり、大規模経営が実践できる。

### 「伊達野菜」を主体とした農業所得向上の取組

#### ◇地域の特色を活かした「伊達野菜」の拡大



- ◇整備されたほ場では、機械化の導入と併せ生産性が向上し、早期出荷が可能となる。
- ◇道外産から道内産に切り替わる6月上旬は、卸売量が落ち込むため、伊達産の作物を増産し、早期出荷することで、高値取引を掛け合わせた生産額の増と道外産から道内産へのシェア切り替えを狙っていく。

#### ◇産地収益力の向上に向けた取組み



- ◇ブランド化による産地収益力の向上。



- ◇伊達野菜のネーミングで道の駅観光物産館内の農産物直売コーナーにおいて、多種多品目の農産物を販売しており、伊達市の農業活性化に寄与している。

生産基盤の整備により「伊達野菜」の生産拡大と効率的な農作業を実現

収益性の向上・競争力の強化【野菜生産地の維持発展】